

踏み跡 < My mountains >

三山もチョココンとオベリスクを乗せた地蔵岳を頭にはっきりと姿を見せている。

夏の賑わいなど忘れたように上日川峠(かみにっかわとうげ:1580m)はうら寂しい(9時に通過)。

主稜線上(2038m)に到達10時07分。ここは大菩薩嶺の南側の肩になる。

大菩薩嶺(2056.9m)を往復して10時55分出発。石丸峠(1930m)には12時に到着。

天狗棚山(1957m)12時05分、ここで遅い昼食。ここから本番、長峰縦走が始まる。富士山と南アルプスの峰々の眺めともここでお別れ。長峰の南に雁腹摺山と檜の木尾根、北に牛の寝通り。

地図で見てもわかるように長峰とは名ばかりで、二つの大きな尾根に挟まれた小さな尾根に過ぎない。

「長寝」という伝説がその名の起源らしいので、尾根の長さとは関係ないようだ。

天狗棚山から米代(1873m?)に下り、南東に走る尾根をさらに下ると白草の頭(1326m)、カネツケの頭(1266m)と、どんどん高度を下げていく。939mの三角点から八丁坂の急な下りになると右手に葛野川の高い瀬音が聞こえてくる。長峰とはいえども、三時間で下界の深城にたどり着いてしまった。15時35分、深城は葛野川が支流の土室川を入れる所で、この流れでは一番奥の集落だ。最近、林道工事が進みトラックが入るようにはなったが、相変わらずの辺境である。

和田の集落に16時40分に到着したが、バスは16時10分に出たばかりで、次は19時の終バスだという。八坪まで歩けばバスの便が増えるかなと期待して歩いたが、同じことだった。八坪のバス停前のお店で休ませてもらい、19時10分の最終バスに乗った。(50円)

猿橋車庫までたどり着いたらもう深々と冷え込む20時前。空腹を癒さんと国道沿いの赤提灯の暖簾をくぐりラーメンを食べた。実に美味しいラーメンだった。腹が減っていたせいかもしれないが、今でもスープの味を思い出せそうな気がする。さらに、このラーメンを運んでくれた女の子がこれまた今でも思い出せそうな、目が輝き目元のきれいな、しかもよく似た(姉妹のような)二人。ラーメンの美味さとともに忘れられない思い出となった。店の名前は手帳に「ゑびす屋」とメモしてあった。

猿橋発20時54分の高尾行に乗り、家に着いたらもう23時を回っていたが、一杯のラーメンと二人の女の子のせいかな疲れはほとんど取れてしまっていた。

以上

<余談>

●葛野川(かづのがわ)

この山行をした頃は、葛野川の谷間は上和田あたりまでしかバスが走っていなかった。

深城にダムができて葛野川と土室川の合流点にはフカシロ湖が生まれ、さらにその北側の土室川には葛野川ダムと松姫湖も生まれた。大菩薩の秘境のひとつに数えられていた葛野川と土室川の谷は激変した。

●雁腹摺山(がんがはらずりやま)

大菩薩山塊には、雁腹摺山・牛奥雁腹摺山・笹子雁腹摺山と三つの「雁腹摺山」が存在する。

「山高きがゆえに、雁が越えるときに腹を摺るほどだ」というのが起源だそうだ。

大菩薩山塊の北にある奥秩父の主稜線には、雁坂峠・雁峠がある。これらの「雁」と名の付いた峰や峠が一本の帯上に存在することから、渡り鳥の渡りのルートであったことがうかがえる。

ワクワクするような面白い話だ。日本の山々の山名の中で、味わい深い山名のひとつに数えられる。

(修正・更新:2023年10月)